



Webinar 子宮頸がん検診

日本の検診はどのように変化していけばいいのか？

子宮頸がん撲滅のための世界戦略では、2099年までに公衆衛生上の問題として子宮頸がんが撲滅される世界を想定しています。この戦略の一環として、70%の女性が生涯に2回以上、高感度検査による検診を受けることが望ましいとされています。日本では検診率が30~40%であり、HPVの一次検査は推奨されていません。この講演会では、海外で成功した検診プログラムの事例、看護師主導の検診やHPV自己採取などから、日本の子宮頸がん検診がどのように変化していけばいいのかを考えていきたいと思えます。

【開催日時】

同時
通訳

2022年3月26日(土)
18:00~20:00

参加
無料

【講演内容】

講演1 英国における子宮頸がん検診における看護職の役割
スクリーニングからコルポスコピーへ

Speaker : Dr. Breda Anthony Nurse Consultant, Royal Infirmary Edinburgh

講演2 世界、そして日本におけるHPV自己採取の動き
HPV自己採取による成果と日本での自己採取の導入

Speaker : Dr. Sharon J. B. Hanley 北海道大学環境健康科学研究教育センター 特任講師

講演3 Program Rose : Malaysia での自己採取導入戦略

子宮頸がん検診受診率の低いMalaysiaでの自己採取の導入戦略Program Rose の実際

Speaker : Professor Yin Ling Woo University of Malaya

ディスカッション

司会 : 小林絵里子 富山県立大学看護学部 講師

指定発言 : 鈴木幸子 (埼玉県立大学) 早乙女智子 (ルイ・パストゥール医学研究センター)

【申し込み】

・ URL : <https://forms.gle/QMsAwoqiu2QfWxrS9>

・ 問い合わせ 富山県立大学 工藤里香 kudo-r@pu-toyama.ac.jp



【主催】 富山県立大学母性看護学講座 北海道大学環境健康科学研究教育センター

【共催】 一般社団法人 性と健康を考える女性専門家の会

【後援】 富山県 富山市 富山県教育委員会

科研費
KAKENHI

* 本講演会はJSPS科研費20H040021の助成を受けたものです。